

令和2年度 ハンズオン支援の事例

四日市地域

農事組合法人 ハサマ共同製茶組合（四日市市）
三日市酒づくり委員会（鈴鹿市）
定五郎物語「みえのゆめ」生産者グループ（鈴鹿市）
関南部地区まちづくり協議会久我自治会（亀山市）

津地域

榊原の地域振興を考える会（津市）

松阪地域

ベルファーム農家市場 ベル農会（松阪市）

伊賀地域

農事組合法人 下友生ファーム（伊賀市）
西喜農産株式会社（伊賀市）

農事組合法人

ハサマ共同製茶組合（四日市市）

四日市市街地より僅かに西にある狭間地域は、平野と丘陵地からなる農村地帯です。

丘陵地では早場産地として茶栽培が盛んでしたが、徐々に荒廃化が進行しています。

そこで、市街地に近い利点を生かし、市民との交流を図るとともに、緑茶・紅茶・半発酵茶など多様な茶生産により、茶園の保全・地域振興につなげていきたいと考えています。



スタートアップの取組

煎茶用のお茶として「やぶきた」という品種を主に栽培していますが、「べにふうき」の栽培を10年ほど前から始めました。紅茶にするとおいしいという話を聞き、平成26年から紅茶づくりに挑戦しています。

おいしい紅茶を飲んでいただいた方々と共感したいという想いと地区名の狭間を別読みし、『Kyoukan茶』と名付け、商標登録しています。

この紅茶の知名度を高めるため、スタンド看板及びユニフォームを製作しました。

マルシェなどのイベント等で使用し、リピーターを増やしたいと考えています。



Kyoukan茶
『紅茶工房』



茶摘み体験会の様子



スタンド看板



ユニフォーム



紅茶製品
「Kyoukan茶」

これからの取組予定

たくさんの方々にお茶づくりの楽しさを知って欲しい、地域の産業であるお茶に興味を持って欲しいと思っています。

また、多様な茶生産により茶園の保全・地域振興につなげていきたいと考えています。

1 お茶とのふれあい

市民へ地域のお茶に触れる場を提供し、地場産業への関心を高めていきます。

2 茶新商品の開発

茶の新商品の開発・販売を行い、茶業再生を図っていききたいと考えています。

三日市酒つくり委員会

(鈴鹿市)

鈴鹿市三日市地区では、住民自らの参画により行政と連携した街づくりを行っています。

これまで地域資源でありながら、あまり注目されてこなかった米に焦点を当て、酒づくりを計画し、酒造メーカーと連携した地酒づくりに取り組み始めました。



スタートアップの取組

地元の米を使った地酒「天晴れ！みっかいち」のパッケージには、県無形民俗文化財に指定されている地域の伝統行事『おんない念仏』の写真を使用しています。

郷土意識の醸成を図り、販路拡大に向けて情報を発信するため、のぼりを作成しました。

イベント時の使用はもちろん、通常時も地区内にある地酒「天晴れ！みっかいち」の販売施設「『酒工房』みっかいち」に掲げてPRし、販売促進を行っています。



『酒工房』みっかいち



伝統行事 『おんない念仏』



地酒『天晴れ！みっかいち』

これからの取組予定

地元資源（人・農地・自然）を活用した「地酒づくり」を通じて、豊かな地域資源を見直すとともに、新たな絆・連携づくりによって地域の活性化を図ります。

1 地酒づくりを通じた地域の活性化

地酒を活用した地域交流を推進するとともに、販路拡大を図っていきます。

2 酒米づくり

酒米栽培の技術向上を図り、高品質、高収量で安心な酒米を生産して、地酒「天晴れ！みっかいち」の品質向上につなげます。

定五郎物語

「みえのゆめ」生産者グループ (鈴鹿市)

鈴鹿市牧田地区の甲斐集落では、20年ほど前から米・麦・大豆の二年三作のブロックローテーション体系が確立され、地域ぐるみで効率的な水田活用が行われています。

地域資源である米を使い、地元の酒造メーカーと連携した地酒づくりをきっかけに、農業の活性化及び地域の活性化を図ることを目指しています。



スタートアップの取組

地域資源を活用した地酒『定五郎物語』は、牧田地区が誇る偉人の前川定五郎さんの名前を冠しています。

地酒づくりを通じて、豊かな地域資源を再認識するとともに、販路拡大に向けて情報を発信するため、のぼりを作成しました。

イベント時の使用はもちろん、地区内で酒米用に栽培している「みえのゆめ」のほ場にのぼりを掲げて、道行く人にPRし、販売促進を行っています。



地酒『定五郎物語』



『みえのゆめ収穫作業』

これからの取組予定

地域資源である米を使った地酒づくりをきっかけに地域の活性化を図ります。

1

良質な米づくり

酒造業者の求めるニーズにあった品質、安全安心な米を安定的に生産するために、関係機関との連携により、栽培技術の向上と生産量の確保に取り組めます。

2

地酒づくりを通じた地域の活性化

地酒のPRを行い、認知度や購買意欲を向上させ、生産・販路拡大に繋げていき、地元の農業の活性化及び地域活性化を図ります。

関南部地区まちづくり協議会 久我自治会

(亀山市)

亀山市関町久我集落は中山間地域に存在し、近年、獣害による農産物への被害が拡大し深刻化するとともに、住宅地域での生活環境被害も発生していました。

このため、電気柵等の被害防止対策と併せて、集落による捕獲体制を構築し、捕獲した獣の利活用と獣害対策に取り組む後継者の確保・育成を進めています。



スタートアップの取組

捕獲体制を構築し、比較的短期間に多くのシカやイノシシを捕獲したことで、獣数は相当数減少したと思われませんが、集落外からの侵入も多く継続捕獲が必要です。



箱罾仕掛け説明会



捕獲止め刺し処理の安全対策研修会



捕獲したシカ



ジビエ料理の研究

これからの取組予定

農作物の被害対策だけでなく、緩衝帯の整備や防犯環境パトロールなど住環境対策にも継続して取り組み、安全で住みやすい地域づくりを進めます。

ジビエ肉の料理研究を一層深め、様々な町おこしイベントに調理提供するとともに、ホームページで取組を発信していきます。

これらの取組により、集落内農地の営農継続、捕獲・解体の後継者育成、獣肉を活用したジビエ料理の推進を行い、久我集落を始めとした関南部地区の農業活性化及び地域活性化を図ります。

1 捕獲・解体の後継者の育成

より安全・安心な捕獲・解体を進めるため、電気止め刺し機及び獣専用皮ハギ器を導入し、後継者の確保・育成を図ります。

2 ジビエ料理の研究・開発

捕獲した獣の利活用のため専用の冷凍庫を導入し、ジビエ料理メニューの研究・開発を行います。

榊原の地域振興を考える会 (津市)

過疎化、高齢化が進み、温泉地として活気が減りつつある榊原地域を温泉や農業、自然などを連携させた取り組みを実施していくことで再び魅力ある地域として、地域住民だけでなく地域外の人にも住みたくなくなるような地域としていくことを目指します。



スタートアップの取組

榊原地域の知名度の向上と集客活動を目指して大都市圏でのPRイベントを実施するとともに、今後のツアープログラムのコンテンツの熟成と今後の集客の拡大を目指して地域での体験イベントを実施します。

榊原温泉への入り口にあたる市営日帰り入浴施設「湯の瀬」の横に体験イベントや観光で訪れる方に向けた横断幕を設置しました。

来訪された方々には心を込めておもてなしをして、リピーターを増やし活気のある地域を目指します。



横断幕設置前の様子



横断幕 1枚当たり2.5×1.8m



横断幕設置後の様子



足湯でノルディックウォーキングのウォーミングアップ

これからの取組予定

老朽化した市営日帰り入浴施設の再整備を契機に、歴史ある榊原温泉をはじめ、農産物、自然、文化などの地域資源を活用し、榊原米のブランド化や観光農園の運営、特産品の開発、温泉の活用方法の確立などに取り組み、観光地としての榊原温泉への交流人口の増加を図ることで、地域の活性化を目指します。

ベルファーム農家市場 ベル農会

(松阪市)

ベルファーム農家市場ベル農会は、松阪農業公園ベルファーム内の農産物直売施設「農家市場」へ農産物及び農産加工品を出荷する者で構成される生産者の出荷団体である。ベル農会は、会員が自ら生産した農産物等を農家市場へ直接出荷する取組の他、ベルファーム内に設置されている「学びの農場」を農作業体験の場として活用している。



スタートアップの取組

ベル農会が取り組んでいる「サツマイモ生産」において、生産量の拡大に伴い、販売強化が必要となってきました。これまでベルファーム園内で、生芋の販売と飲食施設での加工を主として販売してきましたが、出荷量の増大に合わせ、販売を多様化する必要があると考え、地産地消から他消も視野に入れ、商品開発を行うという結論に至りました。こうしたことから、生産するサツマイモを地域特産品の一つとして育て上げることを目的として活動しています。



ほ場での作業

これからの取組予定

ベル農会生産のサツマイモ「シルクスweet」を「きわみもきわみん」と名付け、ブランド化を推進します。

その中の一つの取組として、干し芋スイーツをつくり、ブランド化を推進します。



干し芋スイーツ



サツマイモを利用した商品

農事組合法人 下友生ファーム

(伊賀市)



下友生地区は、古くから良質米として知られる伊賀米の産地の一翼を担っており、主に伊賀米コシヒカリを栽培しています。下友生ファームは、地域の水田農業を確実に次世代へ継承することを目的として平成27年に設立されました。設立当初から収益力を向上させるために米の直販取扱量の拡大を重点的に取り組んだ結果、主食用米は全て飲食店や卸会社等に直接販売できるようになりました。さらに販路拡大を図るため、最終消費者と近いJA直売所と連携した取組を新たに始めることにしました。

スタートアップの取組

美味しい米の理由を消費者に伝えるとともに、下友生ファームの取組に納得してもらって米を購入してもらうことを目的として、顧客を獲得していくために必要なリーフレットを作成しました。

米の販売時に消費者にリーフレットを渡すことで、下友生ファームの取組に納得したより良い顧客の獲得に繋げ、下友生ファームの利益向上を図ります。



美味しい米の理由を伝えるリーフレット



JGAPの認証取得審査



ドローンの導入

これからの取組予定

食材の安全性、従業員の作業安全性の確保するためのGAPの認証取得や、スマート技術を活用した競争力の高い米づくりを行い、地域の活性化を図ります。

1 安心安全な米作りの推進

農場内のルールづくりを通じて従業員の安全意識、責任感を高め、トレーサビリティを確保した米づくりを目指した取組を進め、JGAP認証を取得します。

2 収量向上、品質向上に向けたスマート農業技術の活用

ドローン、ほ場管理システム等を活用し、高品質で安全な米の生産を目指します。

西喜農産株式会社 (伊賀市)

西喜農産株式会社は、米・麦・大豆の生産を経営の基盤としつつ、農産物加工の専門的な技術を活かした農産物の高付加価値化により地域の活性化に積極的に取り組んでいる法人です。

農産物加工所への勤務で培った高い技術と豊富な知識、温かな人柄により、委託加工の相談は地域内外から途切れることがなく、引っ張りだこの毎日が続いています。



商品イメージの統一化

平成30年に加工施設を整備して以降、目標に向かって着実に実績を積み上げています。

商品化した加工品が増えるなかで、販売先から贈答用のセットの依頼があり、オリジナル商品のイメージを統一化することで売上増加につなげるべく、ロゴマークを作成しました。

加工品に限らず、主力商品である米の包材に貼付することで積極的にPRを行うとともに、将来的には包材に直接印刷することも検討していきたいと考えています。



ロゴマークを貼付したオリジナル商品

これからの取組予定

- ・農産物加工を通じた地域の活性化

眠っている地域資源で加工品を作り上げることにより、地域の活性化につなげます。

- ・委託加工を通じたネットワーク

委託加工のつながりで得られたネットワークを活用し、地域内外の販売先を拡大することで、6次産業化の魅力について広く情報発信を行います。

地域活性化プランに関する問合せ先

問合せ先	電話番号
三重県 農林水産部 担い手支援課	059-224-2016

地域機関の窓口	電話番号
桑名農政事務所 農政室 地域農政課	0594-24-7421
四日市農林事務所 農政室 地域農政課	059-352-0629
津農林水産事務所 農政室 地域農政課	059-223-5102
松阪農林事務所 農政室 地域農政課	0598-50-0515
伊勢農林水産事務所 農政室 地域農政課	0596-27-5164
伊賀農林事務所 農政室 地域農政課	0595-24-8108
尾鷲農林水産事務所 農政・農村基盤室 地域農政課	0597-23-3498
熊野農林事務所 農政室 地域農政課	0597-89-6122